

平成 29 年度 第 3 回四万十町人づくり委員会 会議結果（要旨）

日時：平成 30 年 3 月 27 日（火） 14:00～16:00

場所：四万十町農村環境改善センター 大会議室

〔出席委員〕 森本 民之助、吉本 悦子、新井 みなみ、門舛 俊也、岡田 光
司、水間 千津恵、小野川 貴江

〔欠席委員〕 武政 直人、林 伸一、川添 節子、岡村 健志、中野 千里

【会議次第】

1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 議事
 - 1) 平成 29 年度事業説明について
 - ・四万十塾（イノベーター養成講座他）
 - ・産業振興塾（農業者ネットワーク他）
 - ・未来塾（四万十町高校応援大作戦他）
 - 2) 平成 30 年度事業説明について
 - 3) その他
4. 閉会

【会議結果】

（事務局）

只今より第 3 回人づくり委員会を開始します。今後の進行については、委員長にお渡します。

（森本委員長）

こんにちは。平成 27 年度・28 年度の第 1 期の人づくり委員会は、どちらかと言うと生産側、作りだす方の意見をいただき、方針等を検討してきた感がありました。今回は、質を上げるために、作り出す側だけでなく「どんなニーズがあるのか」という視点で意見を出していけば「生産・流通・消費」の循環がより質の高いモノになるという事で、この第 2 期を始めました。この後、本年度の未来塾・四万十塾・産業振興塾の事業報告がありますが、その観点での意見・質問をもらい、より質の高い人づくり委員会にしていきたいと思えます。

(事務局)

事務局説明 四万十塾の事業報告 (資料P 7～P11)

(新井委員)

バレーボール教室には何人の方が参加しましたか。

(事務局)

今年度は、四万十高校から2名、十川中学校から15名の生徒が参加し、高知大学の女子バレーボール部は、11名の学生が参加しました

(森本委員長)

施策1のイノベーター養成講座は、目標としていた受講者数は何人でしたか。

(事務局)

定員としては10名を予定しており、9名が受講しました。来年度も10名程度を予定しています。

(森本委員長)

門外委員、ビジネスプランコンテストに高知銀行も共催で関わっていましたが、何か意見等をいただけませんか。

(門外委員)

一番驚いたのは、町内・外から22件の応募があった事で、第1回目としては意義あるものだと感じました。当日は、12名の方が、想いを込めて発表していたので、継続して行く事によって、もっと具体的で実現性の高いプランが出てくるのではないかと思います。今後も続けていくのであれば、我々も協力していきたいと思います。

(森本委員長)

ビジネスプランコンテストについて、高知銀行賞・FoundingBase賞・CAMPFIRE賞がありますが、副賞とかはありましたか。

(事務局)

高知銀行賞は、高知銀行が共催になっているので、事前にお問い合わせをして、賞状と盾を用意していただきました。また、受賞プランが実現できるようにバックアップをし

ていただく了承も得ています。また、その他の賞は、大賞プランとの評価が非常に拮抗しており、審査員より「何もないのは非常に勿体ない」という意見が審査の過程で多くあり、審査員の会社名をつけた賞を、急きょ創設していただきました。ただ、急きょ創設した賞のため、賞状等はありませんでしたが、それぞれの会社に高知銀行賞と同様、受賞プランに対するバックアップをお願いしています。

(森本委員長)

賞として価値を創っていただくのは、とてもありがたいし、次のヤル気に繋がると思うので、特別にできた賞は良い判断だったと思います。それでは、次の産業振興塾の事業報告をお願いします。

(事務局)

事務局説明 産業振興塾の事業報告 (資料P12~P14)

(森本委員長)

岡田委員、町内事業者人材育成事業に商工会が関わっていますが、簡単に私たちに説明していただけますか。

(岡田委員)

具体的には、これから創業を考えていたり、経営力を向上・強化するためのお手伝いをしています。後方支援ということで、商工会の事業や県の事業を使って支援するつもりでいますが、周知不足があって、強化に繋がった事例はまだありません。ただ、今後もサポートをしていく予定です。

(森本委員長)

具体的に、商工会が関わった事例はありますか。

(岡田委員)

個別相談会として、セミナー後に会社の現状把握や実施したい事業のマッチング、それに対して補助事業等の紹介を行いました。補助事業については、町独自の補助事業や国の補正予算事業等もタイミングによって紹介していきます。

ただ、事業者が欲しい情報と、提供できる情報がマッチングできない場合もあるので、今後も意思疎通を図りながら進めていく予定です。

(森本委員長)

町のチャンネルだけではなく、商工会の補助金とかチャンネル等の紹介も含め、バックアップするという事ですか。

(岡田委員)

資金的な事であれば、銀行等の金融機関に繋ぐという役割も（商工会は）担っているので、資金計画等の作成の手伝いもしています。

(森本委員長)

地域が活性化しそうな芽はありますか。

(岡田委員)

割と若い方が出ているし、これから期待できると感じています。自分自身も頑張らないといけないと思っています。

(森本委員長)

ありがとうございます。他にご質問ご意見はありませんか。

(松岡委員)

町内事業者向けのセミナーを開催していますが、どのような事業者が参加されていますか。

(事務局)

介護福祉サービス事業者、観光事業者、建設事業者、小売業者、ガソリンスタンド、スーパー、各種法人事業者等より参加いただいています。第3回目については、第1回・2回に参加していない事業者も参加いただきました。その時は、地域商社、製造小売業からの参加もあり、次年度についても、講師と今年度の検証を行いながらテーマ設定をしていきます。

(松岡委員)

だいたい事業者は、自らの意思で参加されていますか。それとも、事務局側から働きかけによって参加されたのですか。

(事務局)

案内方法については、毎回、約 550 の事業所に案内をしました。それに加えて、1回目に参加した事業所を1軒1軒訪問しながら参加の呼びかけもしています。

(門舛委員)

株式会社アグリゲートの会社概要と、どういう選定でこの会社に協力をいただいているのですか。

(事務局)

株式会社アグリゲートは、「旬八青果店」という対面販売のスタイルで、昔ながらの八百屋を展開しています。また、自社で取り扱う野菜を使ったお弁当を販売する「旬八キッチン」や、自社の物流を取り扱っています。

また、自社農場の設置や、流通と販売だけではなく、青果店の講座やバイヤー講座、地域商社講座といった講座を開設している「旬八大学」も運営しており、人材育成等にも取り組んでいます。

本町としても、物流の仕組みや流通構造自体がわからない部分があるので、生産側も、流通構造や出口である販売をしっかりと意識した取り組みをやっていく中で、アグリゲートから支援をいただきながら進めたいと考えています。

(森本委員長)

暮らし・産業継承人材創出事業で生産者も流通を学ぶとあるが、ネットワークの構築を目指すのは大変良いと思います。最終的に生産から消費までが一つの流れであると思うが、このネットワークづくりに生産者と消費者の繋がりもあれば良いと思いました。

流通の先にある消費者とのネットワークもあれば、とても良い意見交流の場になるのではないかと思います。

(新井委員)

消費しているところを見ることは、農家と消費者の交流であり、面白いと思いました。(消費者側から) 考えて物をつくる事は、例えば、すごいパクチーを食べているのを見てパクチーの種を植えるみたいな勉強は、生産者にとって大事だと思います。

(森本委員長)

吉本委員、いかがですか。

(吉本委員)

JAみどり市の視察旅行があり、高知市の「とさのさと」や「南国スタイル」等に行きました。とさのさとは、野菜だけでなく魚や花卉類、鉢物や花の苗などもあり、いつも多くの方が利用していると聞きました。また、南国スタイルでは、会社組織で若者を雇用し、大型機械も導入して農業を行っていました。農地は、自分たちの農地だけでなく、耕作放棄地等を借りて生産を行っていましたが、なかなか手が回らず、借りてはいるが草刈りだけしている農地もあるようでした。ただ、今年度は、地権者自

らが管理料を払ってくれたようです。先ほどの委員長の話とは少し反対になりますが、私は生産者側を見て、とても勉強になりました。

(森本委員長)

色々なスタイルがあると思います。先ほどのアグリゲートも、大量生産・大量消費の流れから、新しい「昔の価値」というブランド力をつけていると思いました。今は高度成長期のように大量生産・大量消費が良しという価値だけではない事を認識するのも大切だと思いました。ですから、南国スタイルには南国スタイルのスタイルがあり、四万十町には四万十町で、小さくても質の良いモノを提供していく事に価値があり、それに応じた対価を求める・支払う文化が出来れば、良い循環になると思います。

(新井委員)

経営力強化セミナーに参加した事業者の多くは、町内の消費者を対象にしている方が多いと思うので、(四万十町の規模や状況等に)近いところの事例を見た方が勉強になるのではないかと思います。

事務局説明 未来塾の事業報告 (資料P4~P6)

(新井委員)

高校応援大作戦の窪川高校の取り組みを、森本委員長にお伺いしたいです。

(森本委員長)

窪川高校では、(じゅうく。のスタッフに)総合的な学習の時間に入ってもらっています。教員としては、計画していない部分に入るのも、少しやり辛さもあるが、結果としてプレゼンテーション等で提案できるモノを作ることが出来ました。また、文部科学省が主催するフォーラムに、窪川高校と町営塾が呼ばれて発表する機会とパネラーとして登壇する機会をいただきました。また、その時の発表(プレゼンテーション)も好評であり、文部科学省から提供依頼もありました。

それとは別に、県内の総合的な学習の時間研究会にも窪川高校が招待され、そこでもプレゼンをし、高い評価をいただきました。一定の評価を得ると生徒も教員も「ちょっといいんじゃないか」という感じになり、来年度も前向きな形で町営塾と協働しながらやっっていこうという雰囲気になっています。

(新井委員)

そのプレゼンテーションを、町内でも聞ける機会があれば良いと思いました。

(森本委員長)

開催日の設定が悪いのかもしれませんが、毎年2月に「夢・志シンポジウム」と題して、四万十会館の方で発表もしています。高校生も含め、延べで200名くらいの来場者があります。また案内をするので、ぜひ参加していただけたらと思います。

(吉本委員)

定員に達していないのは四万十高校や窪川高校だけではないですが、別の町村の中学3年生は、ほとんどが地元の高校へ進学していました。それから言うと、四万十町の中学3年生は、町外の高校に進学しています。

自分たちの時も、市内の高校に進学する生徒もいましたが、窪川高校で頑張った同級生もたくさんいる。それらは、地元愛等に全部が繋がってくると思います。もちろん都会に出て行く事もグローバル化として大切だが、若い人に地元に残ってもらいたいという思いがあります。窪川中学校からできるだけ窪川高校に、大正中学校などから四万十高校に行って自分がやりたいという事に挑戦するようにならないかと思っています。また、国公立等の大学に何人行っているのかも気になっています。

先ほどの町村では、山の小さな高校なのに高知大・工科大・県立大に結構進学しているようでした。その違いはどこにあるのかなという思いもあり、それこそ魅力的なわが町づくりと関係すると思います。

(森本委員長)

窪川高校は、平成24年度から進学を希望する生徒の3割は、4年制大学に進学し、その内の4割くらいが国公立大学へ進学しています。24年度は3人、25年度は4人、26年度は3人、27年度には3人、28・29年度は1人ずつだが進学し、来年度も希望者が多いので、もう少し多くなるかと思っています。

ただ、中山間地域の普通科の現状としては、就職する生徒、公務員、それから専門学校への進学を希望する者、そして大学でも短大に行きたい生徒、そして四年制大学、国公立大への希望者と進路の幅が広い。それを限られた教員数で進路指導するという難しさがあります。これが都市部の普通科と違う所。

しかし、人数が少ない部分を町と協力して活性化させており、小さくても質の高い価値を創出することが大事で、この活動を窪川高校はやっているつもりです。それぞれが違った形で、中山間地域の高校の活性化をしています。私たちは町と窪川高校と町営塾で、また違った四万十町の活性化を発信していこうとしています。まだ成果が出ていないかもしれないが、今の生徒たちの雰囲気がとても良いので期待をいただけたらと思います。

(松岡委員)

高校応援大作戦では、「四万十町の未来を元気にする人材の育成」とありますが、町営塾の最終的な目標は、大学に進学する人数を増やすのですか。個人的には、地元

で色々活躍する人材を増やすために、大学に進学する人数を増やすと理解をしていますが、それで良いのですか。

(事務局)

高校応援大作戦は、地元高校の良さを改めて再認識する取り組みとして実施しています。また、高校生という多感な時期に、もう少し地元の良さも知る仕組みとして、高校に対して、町が外から少し支援をしています。生徒はもちろん先生方の負担軽減もし、いきいきと地元の高校で学校生活を送っていただきたいと思っています。

その中でも、放課後の学びの場として、学力の向上を含めて社会性を育てていくきっかけを町営塾で作っていきこうとしています。町としては、町内の地元中学からの入学率を6割くらいまでにしていく目標を掲げているが、なかなか難しい所もあります。それでも、地元高校の存続も含め応援することで、少人数の良さを磨き上げるとともに、地元の良さや、地元での活躍の場を考えてもらうきっかけの場を目指しています。ただ、6割という目標はすぐには難しいと思うので、窪川高校であれば二学級以上は入学者を目指し、町営塾も含め、高校応援大作戦で後押ししていきこうとしています。

(森本委員長)

高校の方向としては、島根県の隠岐島前高校を見習って学校経営をしているつもりです。隠岐島前高校は、地域学を前面にだしているが、学力をつけるという事は絶対に外していません。窪川高校も地域に出て、地元を知ることも大事にしているが、進学や学力をつけるという事は捨てていません。そこは、町営塾と連携し、これからも頑張っていく予定です。

ただ、大学に進学しても、地元のことを理解していたら視野を広めて戻って来てくれるだろうし、関係する人を四万十町に送ったり、四万十町を宣伝するような人材になるのではないかと思います。もう1点は、地元への就職ということで考えると、地元企業を知らないという実態がありました。

そこで、平成28年度から高校3年生の就職希望者を対象に、四万十町と協力して就職フェアを開催して、町内の事業所とのマッチングの機会を作りました。今年2年目でしたが、就職希望者だけでなく、進学希望者にも接触させたいと思い、町と協議し、3月に1・2年生を対象としたマッチングの場を作っていただいた。地元に残るという方法も残しつつ、大学に進学して広い視野を持って四万十町を活性化させていく人材を作るつもりで窪川高校を運営しています。

ここで一旦打ち切り、次の議題に移ります。

(事務局)

事務局説明 平成30年度事業説明について (資料P15~P17)

(新井委員)

未来塾で、小中学生への支援で何か新しいものはありませんか。

(事務局)

四万十高校の連携中学校である北ノ川中、大正中、十川中の生徒を対象に「じゅうく。」の開放を考えています。また、小中学生の保護者向けに高知大学出前公開講座等を提供していきたいと考えています。

(森本委員長)

その小中高連携の施策の一つとして、例えば窪川高校でワクワク科学実験教室を開催していますが、小中学生も対象として「じゅうく。」フェスタとコラボするのも良いと思う。今あるモノを精選した形で行えるのではないのでしょうか。検討してみる価値はあるのかもしれない。

(新井委員)

ワクワク科学実験教室は、町内の学校全てに周知をしましたか。

(森本委員長)

町内の小中学校に周知しており、四万十町の校長会でも告知をしました。高校応援大作戦とコラボする事ができれば、事業を増やさずに開催できるのではないのでしょうか。

(小野川委員)

人材育成事業は、2年目の取り組みですか。それとも実施1年目の事業ですか。

(事務局)

未来塾、町営塾の方は平成28年の11月から先行して実施し、四万十塾・産業振興塾は、今年度4月から実施した事業となっています。

(小野川委員)

1年間実施し、課題が見えてきたと思います。ただ、最終的に目指すところがぼやけているところがあり、施策の目標等がわかるようになれば良いかと思いました。また、なぜ地元の高校に進学する生徒が少なくなったのか、その理由は何ですか。

(森本委員長)

以前は、県内に学区制があり、学区内を越えて進学することは基本的にできません

でした。ただ、数年前にその制度を廃止し、自由に進学することができるようになった事も要因だと思われます。

(事務局)

窪川地域では、学区制があった時期でも町外に進学する生徒が一定数おり、町内高校への進学率も4割から5割程度でした。しかし、その学区制も廃止され、進学率はますます低くなっています。

(森本委員長)

平成25年度に窪川中・興津中から窪川高校への進学率は22%。それが徐々に上がっており、一昨年は41人で約35%。昨年は少し下がって約22%で、今年は中学3年生の人数も少なかったが、その割合は30%を超えました。これを町の施策と相まって周知し、進学率40%・50%を目指していきたい。

ただ、進学率が6割を超えたとしても、入学者が40人を超えない程子どもの数が減っている状況もあります。将来的に、高知県として考えていく事は、人数が少なくても価値のあるプログラムを作り、価値を創出していかなければならないと思っています。そのため、町とも連携をしています。

当委員会の共有認識として、消費者プラスその観点を踏まえた発言や意見を願います。

(岡田委員)

情報発信事業は、良い取り組みをしているので、どんどん周知したら良い。人材育成事業のホームページもあるが、トップページでも隅にあり、なかなかクリックするには難しいと思います。ふるさと納税等のページに掲載できれば、クリック数も増えるのではないのでしょうか。

(新井委員)

委員会内で、もう少し話す時間があれば良い。資料だけでも事前に送ってもらえませんか。

(森本委員長)

事務局、資料の事前送付については、ぜひお願いします。

それでは、これで平成29年度第3回の人づくり委員会を終了します。

— 15時54分 終了 —